
春雨

山羊ノ宮

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

春雨

【ZPDF】

N1014K

【作者名】

山羊ノ宮

【あらすじ】

春雨。

それは春に静かに降る雨の事である。

そして！

緑豆のテンパンで作った、透き通った線状の食品である。
別名まめそうめん。

春雨。

それは春に静かに降る雨の事である。
そして！

緑豆のテンパンで作った、透き通った線状の食品である。
別名まめそうめん。

私がこの春雨を初めて食した時、この世にこんなうまいものがあつたとは！と感動した。

そして、思った。

バケツ一杯の春雨が食べたいと。
いや、バケツ一杯では足りない。
もっと多く食べたい！

「それでこの惨状なんだな」

「うん」

私と夫はお風呂場にいた。

そして、浴槽いっぱいの春雨を見て、春雨の魅力を理解しない愚かな夫は呆れている。

「これどうするんだよ？」

「そりや、食べるわよ」

ため息を吐く夫。

一体何が不満なんだというのだろうか？

「まあ、好きに食べたら良いけどよ。風呂入れねえだろうがよ」「そこはちゃんと考へているわよ。貴方がこの中に入れば出汁がとれて一石二鳥に・・・」

「なるか！」

「ならないの？」

「なる訳ないだろ。その前に出汁取るつて言ひ」とせ、もしかして

春雨と白滝間違えてんじゃないか？」

「そんなことは無いわよ。ちゃんと・・・」

私は浴槽の春雨を一掴み、ちゅるりと口の中に吸いこむ。

「うん。おこしい。この味は春雨。私の求める味、間違いないわ」

「・・・せうか、ならいいけど・・・味ねえだろ、それ・・・」

ぽつりと言つた夫の独り言を懐の広い私は許して、話を先に進める。

「あ、それとちゃんと浴槽に入る前に体洗つてね」

「いや、もう今日は風呂入らないから」

不潔な夫が浴槽をあとにしようとしていたので、

「私が一肌脱いで、体洗つたげるって言つても、」

とたん夫の動きが止まる。

「・・・いや、いい」

「一肌脱ぐぐらいじゃダメつてことなら、下着姿ぐらいじゃダメつてことかしら？それじゃあ裸の方がいいのかしら？それともスクール水着とかのほうが好みなのかしら？」

「どちらかと言つとスクール水着の方が・・・つてそんな話じゃねえ！そんなに出汁が欲しいなら自分で出汁になりやいいじゃねえかよ」

「やあよ。何で自分の出汁を食べなくちゃいけないのよ」

「俺ならいいのかよ？」

「良いわよ。ちゃんといつも飲んであげてるじゃないの」

天を見上げ、何かを思い出そうとしている複雑そうな顔の夫。

「・・・いや、まあ、あれも出汁っちゃ出汁だから。つてそんな話をしてるんじゃねえ」

「じゃあ、どんな話よ」

「それは・・・もう、いいや。入るわ。風呂」

「そう。でも、待つて。その前に重大な事を決めとかなきゃいけないの」

「は？重大な事？」

「そう、それは避けては通れない決断の分かれ道。」

最後に残された重大な決断をしなくてはいけないのだ。

「ポン酢と『マダレ』、どちらで食べた方がおいしいと思つへ？」

「知るかあ！」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1014k/>

春雨

2010年12月19日07時17分発行